

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法管理学	必	山内 正雄	1	15	4年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法士として医療機関、その他の施設に勤務する上での管理の概念とその方法について学ぶ。例えば人の管理においては、自分自身の管理を含めた、人的管理を学ぶ。ストレス評価やその対応、さらに各個人の性格などから人的管理の概念や手法を学ぶ。また、組織としての管理では、医療機関という特殊性における感染対策の具体的な例と、病院内での感染対策の方法論についても学ぶ。特に、インシデントの考え方とその価値について事例検討を学習する中で具体的なイメージを獲得してもらう。そのほか、経済面や法律面についても本講義において触れる。					
学位授与方針との 関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	管理者の役割と基本原理					山内 正雄
第2回	コミュニケーションスキル					山内 正雄
第3回	SWOT分析					山内 正雄
第4回	社会保障と保険制度					山内 正雄
第5回	地域包括ケアシステム					山内 正雄
第6回	理学療法政策					山内 正雄
第7回	職域拡大とその背景					山内 正雄
第8回	理学療法士の未来像					山内 正雄
備考						
授業時間以外の 学習について	日常生活での様々な事象について常に注意し、観察しながら本講義内容を当てはめて生活してみましょう。また、ノートや参考資料等を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、レポート(90%)					
教科書	なし					
参考書	植松光俊監修：理学療法管理学. 南江堂					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経筋骨格障害応用論 実習	選	山内正雄・宇於崎孝・大西均・ 池谷雅江・富田昌夫	2	90	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>神経筋骨格障害のうち理学療法対象に対して、病院および診療所での最新の徒手理学療法について、それぞれの臨床の場において学習する。複数の施設において、経験豊富な実践力が高い理学療法士による実践的な実習を行う。具体的には、クリニカルクラークシップによる臨床実習を用い、患者の評価から治療までの一連の流れを経験し、さらに治療前後での変化について病態を踏まえた考察ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全45回) (池谷 雅江/10回) 実習前のクリニカルリーズニングと臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。 (山内 正雄/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢を担当。 (宇於崎 孝/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に脊柱を担当。 (大西 均/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢と腰部を担当。 (富田 昌夫/5回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に神経疾患を担当。</p>					
実務経験	<p>理学療法士として病院やクリニックにて神経筋骨格障害の治療に長年携わり、神経筋骨格障害の症状に応じた適切な理学療法を実践してきた。約10年～30年の臨床経験のある実務家教員5名が、それぞれ専門としている分野において偏りなく指導を行うことができる。さらに臨床経験10年以上の臨床実習指導者と連携し、臨床現場において評価から治療の一連の流れをクリニカルクラークシップによる実習を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
内容	<p>この授業では、様々な臨床現場において神経筋骨格障害のリハビリテーションを経験してもらい、実習先である臨床現場において臨床実習指導者から指導を受け、神経筋骨格障害症例のリハビリテーションの態度・知識・技術の向上を図る。身体の痛みに対する問診、視診をはじめ、神経、関節、筋、その他軟部組織の評価手技を学び実践できる能力を育む。また、情報収集から再現性・信頼性のある検査測定が臨床現場において適切な態度で、正確に実践することができるようにする。さらに効果的な疾患再発予防のためのトレーニングについてもプログラミングできるようになる。</p>					<p>臨床実習指導者 山内正雄 宇於崎孝 大西均 池谷雅江 富田昌夫</p>
備考						
授業時間以外の学習について	実習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	整形徒手理学療法：富雅男 砂川勇監修. 医歯薬出版					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害応用論実習	選	千住 秀明・弘部 重信	2	90	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>近年増加している、内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、それぞれの臨床の場を中心に学習する。施設実習と、実習前後にアクティブラーニングによる学習を入れることで、理学療法士の内部障害の実践的なリスク管理、および環境やQOLに考慮した理学療法について修得することを目標とする。実習は、呼吸循環器疾患、ICU、CCU、高齢者を含む終末期医療の施設および地域のいずれかで、クリニカルクラークシップにて行い、グループワークにて互いの情報を共有し理解の幅を広げる。 (オムニバス方式/45回) (千住 秀明/5回)</p> <p>内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、実践的なリスク管理や環境やQOLに考慮した理学療法を学習する。 (弘部 重信/40回)</p> <p>学内での内部障害を有する患者を対象に、グループワークとロールプレイにより臨床に近い理学療法を体感した上で、施設実習での経験を加えて実習後のセミナーで発表やディスカッションを通して広くかつ深く内部障害の理学療法について学習する。</p>					
学位授与方針との 関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
内 容	<p>この授業では内部障害を有する対象者に対し、病院内で行われているチームでのリハビリテーションの臨床現場と、在宅医療の臨床現場を実習施設に配置し学習する。実習前には、呼吸器疾患と循環器疾患の急性期患者の理学療法、および在宅患者の理学療法についてシミュレーションをグループワークにて実施する。学習した内容は、ポートフォリオとして集積し、シミュレーションの内容を、ロールプレイにて発表を行いディスカッションを加え実習に向けた自己の課題を作成する。実習は呼吸器、循環器、ICU、CCU、がんの領域は病院内で、在宅医療は診療所や通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションでクリニカルクラークシップにて行う。実習先はいずれかの分野を選択し1カ所で実施し、実習後セミナーにて課題についての振り返りと、グループワークを行い学生同士が情報共有することで各分野の理学療法について理解できるようにする。</p>					<p>臨床実習指導者 千住 秀明 弘部 重信</p>
備考						
授業時間以外の 学習について	必要な文献の収集と、理解を深めポートフォリオを作成してください。					
課題・評価方法	授業内課題（ポートフォリオ）50%、レポート 50%					
教科書	なし					
参考書	<p>亀田メディカルセンター編「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」 メジカルビュー社 宮越浩一著「リハビリテーションリスク管理ケーススタディ」 メジカルビュー社</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害応用論実習	選	治郎丸 卓三・宇於崎 孝・ 野口 真一・和智 道生	2	90	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>本科目は最終学年時に行われる実習であり、学生が1～3年次に学習した態度・知識・技術を総動員して、将来スポーツ領域に関わる理学療法士としての資質を養う科目である。この科目で学んだ態度・知識・技術とを融合して、アスリートのサポートだけではなく、子供から高齢者など全ての人を対象に、スポーツを活かして全ての人たちの健康増進に関わる理学療法士としての資質を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全45回) (治郎丸 卓三／12回) 陸上競技を中心に、高校、大学、スポーツ団体でのスポーツ現場での実習を行う。 (宇於崎 孝／11回) 水球、ハンドボール、ゴルフを中心に、国民体育大会の競技サポート場面での実習、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (野口 真一／11回) サッカー、バスケットボールを中心に、高校やスポーツ団体でのスポーツ現場、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (和智 道生／11回) 水泳やライフキネティックトレーニング、リズムトレーニングを中心に、企業やスポーツ団体において子供から高齢者までの各世代を対象にしたスポーツ現場での実習を行う。</p>					
実務経験	スポーツ整形外科クリニックにて6年の理学療法士としての常勤経験を有し、スポーツ整形外科クリニックで8年の非常勤での臨床経験も有する。また、実業団チームや中学、高校、大学の部活動でのスポーツトレーナー活動の臨床経験も有する。その経験を活かして、学生に対して将来スポーツ領域に関わる理学療法士としての資質を養うための指導をする。					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
内 容	<p>この授業では、様々な臨床現場においてスポーツリハビリテーションを経験してもらい、実習先である臨床現場において臨床実習指導者から指導を受け、スポーツ領域における更なる態度・知識・技術の向上を図っていく。スポーツ復帰、スポーツ障害予防、コンディショニングのための情報収集から再現性・信頼性のある検査測定が臨床現場において適切な態度で、正確に実践することができるようにする。また、情報収集や検査測定から得られた結果を基に、妥当性のあるトレーニング内容が選択でき、適切な態度で、正確に実施することができるようにする。さらに、効果的なパフォーマンス向上のためのトレーニングについても思考でき実践することができるようにする。</p>					<p>臨床実習指導者 治郎丸 卓三 宇於崎 孝 野口 真一 和智 道生</p>
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、これまで学んできた全ての科目の理解が必要となります。特にスポーツ分野の科目を中心に復習して基礎知識の整理を行っておいください。また、臨床現場において情報収集や検査、トレーニングができるように実技練習など実践できるように備えておいください。また、毎日の実習で得た知識・技術の振り返りや教科書の見返しなどにより、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	確認テスト（30％）、学内教員の口頭試問、実技試験による評価（70％）					
教科書	なし					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合臨床実習Ⅱ	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西 均・里中綾子・治郎丸卓三・鈴木美香・野口真一・弘部重信・藤谷 亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	6	270	4年次前期	実習
履修要件	評価実習の単位を修得していること					
授業概要 到達目標	診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。					
実務経験	学内では臨床において学生指導経験を持つ実務家教員が指導を行うとともに、学外の指導では病院やクリニックの臨床場面において、臨床経験年数が5年以上の理学療法士が指導に当たる。学内と学外の指導者が連携を持ちながら、理学療法の一連の過程を学生が目標に応じて実施できるように教授する。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。 DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。 DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。					
内 容	評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がおおよそすべての理学療法士が行う検査・測定・治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。					実習指導者 担当教員
備考						
授業時間以外の学習について	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。					
課題・評価方法	実習前：筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE） 実習中（60％）：学外実習、実習ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書 実習後（40％）：凝縮ポートフォリオ、口頭試問、客観的臨床能力試験（OSCE）					
教科書	学内資料、実習のてびき					
参考書	中川法一（編）：セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ．三輪書店 亀田メディカルセンター（編）：リハビリテーションリスク管理ハンドブック．MDDICAL VIEW 才藤 栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編．金原出版 才藤 栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編．金原出版					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法地域実習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・大西均・里中綾子・鈴木美香・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・山内正雄・和智道生	1	45	4年次前期	実習
履修要件	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること					
授業概要 到達目標	地域で生活を送る障がい者の現状を知り、介護保険分野における理学療法士の仕事についてだけでなく多職種との連携方法や多職種の業務についても理解を深めることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。 DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。 DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。					
内 容	滋賀県を中心とした訪問リハビリテーション、および通所リハビリテーション施設において、理学療法士の介護保険分野における業務を見学し一部補助を行う。					実習指導者 担当教員
備考						
授業時間以外の学習について	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。					
課題・評価方法	実習前：筆記試験、実習前レポート 実習中（60％）：学外実習、実習ポートフォリオ、成長報告書 実習後（40％）：凝縮ポートフォリオ					
教科書	学内資料、実習のてびき					
参考書	中川法一（編）：セラピスト教育のための臨床的・クラークシップのすすめ、三輪書店 亀田メディカルセンター（編）：リハビリテーションリスク管理ハンドブック、MDDICAL VIEW 才藤 栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編、金原出版 才藤 栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編、金原出版 重森健太（編）：PT・OTビジュアルテキスト 地域理学療法学、羊土社					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田 孝志・大西 満・池谷 雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (池谷 雅江/7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (大西 満/1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
実務経験	理学療法士として病院やクリニックにて臨床経験を有する。また、各種障がい者スポーツや全国障がい者スポーツ大会にトレーナーとして帯同し臨床経験を有する。その経験やネットワークを活かして将来障がい者スポーツ領域に関わる理学療法士としての資質を養うための指導をする。					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の紹介					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の詳細					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに口関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	確認テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西満 園田悠馬 分木ひとみ 池谷雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西満 分木ひとみ 園田悠馬 池谷雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考	講義回ごと下記のグループ単位で実習を行う。 ①30名グループ：第1～6、8、25～28回 ②5名グループ：第7、9～24、29、30回					
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合実習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生・富田昌夫	1	30	4年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	本科目では、展開科目で学んだことと、職業専門科目や各実習などから得た知識や経験に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題にはどのようなものがあるのかを検討し、その課題に対してどのようなアプローチがなされ、どのような効果を得ているのかについて情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、地域共生社会の実現のために、どのようなことを調査・研究していく必要があるのかについて、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生・富田昌夫
第2回	地域課題に対する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する現状についてディスカッションのまとめ					
第4回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッション					
第5回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッションのまとめ					
第6回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の検討					
第7回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の立案					
第8回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の実施					
第9回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の分析					
第10回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料検討					
第11回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料作成					
第12回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション①					
第13回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション②					
第14回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書検討					
第15回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書作成					
備考	本科目の実施方法については、理学療法学科の学生80名を17グループに分け、1グループ4～5名の学生につき1名の専任教員を配置し、ゼミ形式で進める。しかし、オリエンテーション、プレゼンテーションを行う第1回、第12回、第13回の授業は、1グループ40名の学生と7～8名の専任教員の配置により実施する。					
授業時間以外の学習について	予習として展開科目の中で選択した科目について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。プレゼンテーション資料、企画書の作成は授業の進行に合わせて準備すること。					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					

理学療法学科 授業科目の概要(非常勤講師担当科目)

【4年次後期】

科目区分		授業科目の名称	単位数		時間数	講義等の内容
			必修	選択		
職業専門科目	職業実践科目群	保健医療福祉関連制度論	1		15	日本における医療と福祉の制度について学ぶ。日本の特殊性、すなわち国民皆保険制度について世界の保険制度との比較から、そのメリットとデメリットを考えることにより、これからの日本の医療制度の在り方について考察する。また、世界が注目する日本の少子高齢化と、その対処法としての介護保険制度についても学ぶ。介護保険の歴史から、その未来を人口比率の変動と日本の経済の未来に照らし合わせて概観する。本授業の目標として福祉制度について現在の制度とその問題点を、議論することから認識し、今後日本の医療福祉を担う人材としての考え方を獲得することである。

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合臨床実習Ⅱ	必	辛島千恵子 大西満 安部征哉 嶋川昌典 園田悠馬 辻村肇 杉本久美子 木岡和実 河津拓	7	315	4年次 前期	実習
履修要件	作業療法臨床評価実習の単位を修得していること					
授業概要 到達目標	実習目標は、作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこととする。内容として、作業療法総合臨床実習Ⅰとは異なった分野・領域となる臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への作業療法介入の一連の実施と経過のまとめ及び再評価を通して作業療法の効果判定の考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。最終的な評価方法は実習指導者と学内実習の総合判定から行う。					
実務経験	病院や施設で5年以上の実務経験のある作業療法士が臨床実習指導にあたり、作業療法士に必要な能力を身につけるために臨床実習指導者の指導の下、実践を通じて作業療法対象者への作業療法評価からプログラム立案・治療をまとめ、再評価を通して効果判定の考え方について学ぶ。					
学位授与方針との 関連	DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1週目	オリエンテーション、施設見学、作業療法士の臨床見学					辛島千恵子 大西満 安部征哉 嶋川昌典 園田悠馬 辻村肇 杉本久美子 木岡和実 河津拓
第2週目	評価計画立案及び一部実践					
第3週目	評価結果のまとめ					
第4週目	作業療法計画立案					
第5週目	作業療法の一部実施					
第6週目	作業療法の修正					
第7週目	凝縮ポートフォリオ指導及び発表、実習後OSCE					
備考	詳細は臨床実習の手引きを参照 授業時間外に実習セミナー、筆記試験、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する日々、実習後に時間外学習を1時間行うこと					
授業時間以外の 学習について	実習中は日々の記録記載や疑問を解決するための文献調査が必須					
課題・評価方法	実習前（0%）：オリエンテーション、筆記試験、OSCE（実習後の評価基準とする） 実習中（50%）：実習指導者評価、実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書 実習後（50%）：凝縮ポートフォリオ発表、OSCE、教員評価					
教科書	なし					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法地域実習	必	辛島千恵子 大西満 安部征哉 嶋川昌典 園田悠馬 辻村肇 杉本久美子 木岡和実 河津拓	1	45	4年次 前期	実習
履修要件	作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。					
授業概要 到達目標	実習目標は、地域で作業療法を行っている施設での実習を通じて、障がい者が地域で生活することの意味や困難を知り、地域医療福祉の理念やその中の作業療法の役割を理解することである。内容は地域作業療法を実施している施設にて指導者の指導のもと実習を行う。また現場で学習した内容を学校にて整理し深める。本実習が作業療法の理念に近いことを学べる内容となる為、今までの病院での実習で学んだこととの相違点を知る機会となる。その為、今後、学生自身がなりたいと思う作業療法士像を明確にし、それが実現できる環境は何かを理解できることを最終到達目標とする。					
学位授与方針との 関連	DP 1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。					
	内容					担当教員
第1日目	オリエンテーション（実習目的と実習内容）及び実習準備					辛島千恵子 大西満 安部征哉 嶋川昌典 園田悠馬 辻村肇 杉本久美子 木岡和実 河津拓
第2日目	地域作業療法実習					
第3日目	地域作業療法実習					
第4日目	地域作業療法実習					
第5日目	発表準備、発表及びディスカッション					
第6日目	実習ポートフォリオ報告会					
備考	詳細は臨床実習の手引きを参照 授業時間外に実習セミナーを実施する					
授業時間以外の 学習について	実習中は日々の記録記載や疑問を解決するための文献調査が必須					
課題・評価方法	実習前（0%）：オリエンテーション、実習前レポート作成 実習中（60%）：実習指導者評価、実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 実習後（40%）：実習ポートフォリオ発表、教員評価					
教科書	なし					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(安田孝志/7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江/7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満/1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との 関連	<p>DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p> <p>DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の 学習について	講義内容に関して復習し、興味あるテーマに□関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者 スポーツ協会					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西満 園田悠馬 分木ひとみ 池谷雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西満 分木ひとみ 園田悠馬 池谷雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺、切断）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考	講義回ごと下記のグループ単位で実習を行う。 ①30名グループ：第1～6、8、25～28回 ②5名グループ：第7、9～24、29、30回					
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習 I	必	大西満 安部征哉 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。					
学位授与方針との 関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第2回～第9回、第14回、第15回は、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間以外の学 習について	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西満 辻村 肇 河津 拓 木岡和実 杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談（事例）から、地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。					
学位授与方針との 関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 辻村 肇 河津 拓 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第4回～第9回、第14回、第15回について、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員（総計4名）を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間以外の 学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					

作業療法学科 授業科目の概要(非常勤講師担当科目)

【4年次前期】

科目区分	授業科目の名称	単位数		時間数	講義等の内容
		必修	選択		
展開科目	就労環境論実習	1		45	目標は、実際の就労支援現場の視察を通して、滋賀県の現在の就労支援にまつわる課題への理解を深めることである。滋賀県の心理精神の障害のある方の就労支援に作業療法士が関わっている事例が少ない為、その問題の背景を調査、分析することが当面の課題になる。就労支援事業所へのフィールドワークや障害者雇用に関心のある事業所での講義(例えば、精神障害者の生活障害について)やアンケート調査(例えば、障害者就労に関して障壁となること)を実施することで、滋賀県の心理精神の障害のある方の就労に関する現状を理解する。成果物は関連学会で発表をすることを旨とする。
	老年期地域生活適応論実習		1	45	人口減少と高齢化が進む滋賀県やその地域の抱える課題を知り、その解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。学内の事前学習にて高齢者支援事業の役割や内容を学び、地域で生活する高齢者支援課題等を整理する。地域のフィールドワークでは、事業所等の社会資源を利用して暮らす高齢者の現状、または安全で健康的な高齢者の社会生活をささえる高齢者支援について学習する。学内にてフィールドワークで得た情報をグループワークにて現状のまとめを行い、議論を通して課題の発見と解決にむけて思考し発表を行う。
	成人期地域生活適応論実習		1	45	地域の施設で暮らす成人期から老年期を迎えた障害者の現状やその生活と困難さ、また支援者の抱える課題とその解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。地域の施設にてフィールドワークやアンケート調査を行い、施設で暮らす成人期の障害を持たれた方の生活状況や施設で働く支援職員の役割や施設での暮らしについて学習し、学内にて施設で得た情報の整理を行い、支援職員の抱える課題やその解決策について小グループに分かれて議論しその内容を発表する。
	児童期地域生活適応論実習		1	45	現場の保育所等事業所における役割や保育の流れを理解し、子どもの育ちとその子どもに応じた保育士等の児童支援職の援助や役割について理解を深める。また発達障害をもつ子どもや気になる子どもに対する事業所での支援の現状について学ぶ。フィールドワークやアンケート調査を通して事業所の現状や児童支援職の役割や専門性のまとめを行い、小グループに分かれて地域での児童の生活とその支援について、また児童支援の中で「作業」(多くは遊びとされている)はどのように意味をもって活用されているかを議論しその内容を発表する。